

2021 メンタルヘルスセミナーを開催 テレワーク時代のメンタルヘルス対策を学ぶ

連合東京は、9月28日(火)、「テレワーク時代のメンタルヘルス対策」をテーマにオンラインセミナーを開催しました。このセミナーは、テレワーク・在宅勤務を円滑に進めるためには、セルフケアだけでなくラインケアも強化し、労使による取り組みによってメンタルヘルス対策を充実させることが必要なことから、理解を深めるとともに具体的な取り組みにつながるよう企画されました。

今回は、昨年に引き続き中災防でメンタルヘルス対策の講師をされている土田悦子氏（メンタルヘルス・オフィス Willpower 代表）を講師に迎え、ラインケアの強化と労使の取り組みのポイントについて講演をいただきました。また、東京ガス労働組合の菊池俊彦常任執行委員（経営対策部長）と富士通株式会社の鍋谷浩之人事・人材開発部シニアマネージャーより、それぞれ労使の取り組みについて事例報告をいただきました。

土田氏は、テレワーク・在宅勤務時のセルフケアを身につけるとともに、メンタルヘルス不調の未然防止から職場復帰支援まで、管理監督者の責任と役割が大きいことから、管理監督者によるラインケアの強化の重要性を述べられました。

菊池常任執行委員は、相談体制の拡充、支部役員への教育、コミュニケーション機会の確保、労使協議等、労働組合としての具体的な取り組みについて報告されました。鍋谷シニアマネージャーは、会社のメンタルヘルス対策の取り組みの現状と課題について、組合委員長の経験も交えながら報告され、「セーフティネットの確立に労働組合は不可欠」と労働組合への期待も寄せられました。

取り組み事例も参考になったと好評で、連合東京はアンケートでいただいたご意見等を参考に、今後も時宜にかなったテーマで、オンラインも含めたセミナーを開催していきます。